

日常的に使えるICT環境をめざし、 LTEモデル8900台の大型導入で1人1台を実施

— 渋谷区教育委員会

目的

- 課題が多くICTの導入検討が進まない
- 普通教室や、校外、自宅等で日常的に使えるICT環境を構築したい
- 1台の端末から校務用ネットワークにも安全に接続したい

アプローチ

- 共同実証の中で生じた課題を一つ一つ解決し信頼獲得
- いつでもどこでもつながるLTEネットワークを採用
- 教員用のネットワークは、セキュアな閉域網アクセスプレミアムLTEを採用

— LTEタブレットの活用で、“学習意欲の向上・効果が見られた” —

東京都渋谷区は、小学校が18校、中学校は8校あり、約8100名の児童生徒が学んでいます。同区では2016年から新学習指導要領の実施に向けて、LTEタブレットを活用した実証を行い、翌2017年9月には、1人1台の方針を掲げて区内の全教員・児童生徒を対象に1人1台のLTEタブレットを導入しました。

今の時代、ICTスキルは生きていくために必要、学校では日常的に使えることが大切

渋谷区教育委員会事務局教育政策担当課長の荒井亮宏氏はLTEモデルを選択した理由について、「いつでも、どこでも使えることや、大規模校で児童生徒が一斉にアクセスしても動きが鈍らないことを最優先しました。また実証実験としてLTEタブレットを使ったところ、個別学習や持ち帰り学習を行うことで学習意欲の向上・効果が見られたことも理由のひとつです」と述べています。ほかにも、Wi-Fi環境が未整備だった渋谷区では、LTEタブレットの方が初期コストの負担軽減にもつながると判断したといいます。最終的に同区では、教師用タブレットも800台導入し、現在は約8900台の端末が稼働しています。



渋谷区教育委員会事務局教育政策担当課長
荒井 亮宏 氏

ICTの取り組みについて荒井氏は「今の時代、ICTスキルは生きていくために必要で、学校では日常的に使えることが大切だと考えています。それと同時に、児童生徒の学びに向かう意欲・関心を高め、LTEタブレットで教師の負担軽減にもつながっていきたいです」と話しています。具体的には、校務支援システムを教師のタブレットに導入し、さまざまな事務処理にかかる時間を減らすことで、児童生徒と教師が向き合う時間を増やすことをめざしています。

渋谷区教育委員会

東京都渋谷区渋谷1-18-21

URL: <https://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

時代を牽引するIT企業が多く集結する東京都渋谷区。そんな同区は2017年9月、新学習指導要領の実施に向けてICT環境整備を一気に進め、区内の全児童生徒と教師を対象に8900台のLTEタブレットを導入しました。いつでも・どこでも安定してつながる学習環境を活かして、多様な学び合いの場を築いています。



[取材協力] 渋谷区立代々木山谷小学校



いつでも、どこでもつながる環境は、学び合いの場を広げる



高学年になるにつれ、広がる活用範囲

渋谷区立代々木山谷小学校は、同区のパイロット校として最初にタブレットが導入された学校です。教師用20台、児童用は1年生から6年生まで366台が整備され、いつでもどこでも1人1台で使える環境を実現しています。

同校の副校長 濱田 弘美氏は2年間の取り組みを振り返り、「最初の1年は教師も分からないことが多かったのですが、今はだいぶ慣れてきてスムーズに使えるようになりました。特に高学年の利用頻度は高くなってきましたね」と語っています。低学年はお絵かきソフトを使用した表現活動や、カメラを活用した観察レポートの作成など簡単な使い方から取り組み、高学年になると、授業支援システムを活用した意見交換や発表、デジタルドリル教材の活用、校外学習、タブレットの持ち帰りなど、活用範囲が広がっているといいます。

どんな児童でも授業に参加することができる素晴らしさ

児童の変化についても、最初はタイピングに時間を費やしていたといいます。次に入力スピードが上がると、余った時間で友達の意見を読んだり、コメントを返したりする姿も見られるようになってきました。ほかにも濱田氏は、「6年生で授業支援システムを使って俳句の創作活動をしたとき、欠席中の児童が自宅からアクセスし、友達の作品にコメントを入れていました。この姿を見た時に、どんな児童でも授業に参加することができるのは素晴らしいと思いました」と語っています。いつでも、どこでもつながる学習環境で、児童たちが学び合う場面を広げています。

いつでもどこでもICTを活用できるからこそ、工夫が生まれる

代々木山谷小学校で6年生を受け持つ細川卓郎教諭は、リアルタイムで共有できる授業支援システムを授業やさまざまな活動に活かしています。

たとえば社会では、授業支援システム上に資料や写真を提示し、それを見ながらクラス全員が気づいた点を書き込み、意見を共有しながら授業を進めることが多いといいます。細川教諭は「タブレットを活用することで意見共有がしやすく、時間短縮にもつながるのがメリットです。その分、授業では児童同士の話し合いの時間を増やすこともできています。また学習記録が残しやすいので評価の振り返りにも役立っています」と語っています。

また授業以外の活用としては、係りの活動や朝学習、タブレットの持ち帰りなどに取り組んでいます。細川教諭は「タブレットを使ってみて、児童たちが進んで工夫する姿に驚きました。係り活動を紹介するページを作成したときも、体育係が跳び箱の飛び方のリンクを載せたり、保健係は体調管理に気をつけようと天気予報を発信したりと、自分たちでICTの活用を考える姿が見られました」と手応えを語っています。



濱田 弘美 副校長

細川 卓郎 教諭

加えて、教師の仕事効率化にもLTEタブレットが有効だと細川教諭は述べています。「出張の移動中や研修先のちょっとした待ち時間など、離れた場所でも同じ仕事ができるのは助かっています」と細川教諭。いつでもどこでもタブレットが活用できる環境の中で、児童と教師の双方がより良い工夫を見つけることができます。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2018年7月取材時点のものです。